

診療室 から 第65回

石川クリニック 院長 石川 悟 (日立市金沢町)

「血尿について」



泌尿器科でもつとも重要な症状は血尿です。目で見て尿が赤いのは肉眼的血尿、尿検査でわかるのを顕微鏡的血尿と言います。尿100ccの中に10ccの血液が混じるだけで肉眼的に確認できますので、血尿が長く続かない限り、貧血になつたり、血圧が下がつたりすることはあります。(血便の場合は大量に出血している場合があるので注意が必要)

血尿が出る病気はいろいろありますが、もつとも重要なのは、膀胱癌・腎盂癌・腎癌など悪性腫瘍です。このような疾患では、無症候性肉眼的血尿と云つて、痛みや頻尿などの症状がなく血尿だけが現れます。昔の小説などを読むと、夜も寝ないで働き続け、ついに血尿まで出た、などとの記載がありますが、疲れただけで血尿が出ることはありません。痛みなどがなく血尿だけが見られた場合は、すぐ泌尿器科を受診しましょう。

膀胱炎・尿路結石でも血尿になることがあります。この場合は排尿痛や頻尿、痛みなどが伴いますので、まずかかりつけのお医者さんを受診して、泌尿器科的な治療が必要かどうか判断してもらつのがいいでしょう。

人間ドックや健康診断で「尿に血が混じっているので、専門医にかかるように」と指導されて、泌尿器科を受診する人も少なくありません。試験紙を使って検査する『尿潜血反応』陽性でも、実際には尿の中に赤血球が認められない人もあり、この場合はまったく心配はありません。少量の血液が混じっていても、経過が長く、また尿の蛋白が陰性であれば、治療をする病気であるのは非常にまれです。顕微鏡的血尿を初めて指摘された場合、尿の中の腫瘍細胞の検査(尿細胞診)、腎・膀胱の超音波検査を通常行います。

医療機器・技術の進歩で、低侵襲で精度の高い診断が可能になりました。血尿など痛くないから様子を見ようといふことなく、病院にかかるください。個人的なことがありますですが、日立総合病院を退職して、4月にクリニックを開業しました。気軽にご相談ください。



Monthly Magazine

ひばじらふ

Vol.33 No.347



花を生ける「遊ぶ」

Feature

- 特集 新緑の季節に 自然を満喫、深呼吸しよう!
- 気持ちの晴れ晴れする眺めのいい場所で
- あってよかったこんなモノ… ハッと気付いたこんなコト
- あつ地震! びばじょいふる編集スタッフ体験記

●この本をあなたに差し上げたのは
お客様を大切にする

ホームページ
リニューアル!

5

2011
May